

農園便り 11月号

2023/11/01

(131号)

文責 筒口典康



10/18 文旦 色付き始める

同日のスプリングアーリーは、未だ青い

我が家のコンピューター室の小窓の前に、ブンタンの大実が揺れている。
宮前中学(杉並)の3年の学年旅行で、九州縦断の旅に出かけました。博多駅からは、全コース運転手付きのレンタカー。とにかく贅沢旅行であった。車中で、甘い文旦菓子を買う。早速いただく。実に美味しい。甘い。最終日に、大きな文旦の果実も買う。帰宅後いただき、種子を庭先に蒔く。

それから20年程経つ。と…。何と、2つ3つの実が付いているのである。去年は、12~13個も付きだした。今年は3倍増。楽しいことが増えました。

最近の東京は、実に暖かくなり、東京もこれからは柑橘類の適地になって来るようだ。

「柑橘」類は、「梨」や「桃」のように手がかからない。で、チャンス到来だ。「柚子」「甘夏」などは、かなり寒さに強い。前から植えている。そこで、「ミカン」「スプリングアーリー」「橙」「ネーブル」なども植えてみている。

「鉢」で栽培すると、甘味が強くなる。早く実る。鉢植えの場合、水切れには充分気をつけよう!!!。で…で、色々植えております。

最近、吸水槽付きの鉢も売られていますから、嬉しい。自分で、「自動給水装置」を工夫するのも楽しい。

『筒口さん。俺ナ、東京・杉並も暖かくなってきたから、ミカン農家やろうと
思っているのだが、どう思う』と、野菜づくり農家の西山君が言う。彼の庭には超巨大な実の「仏手柑」も「バンペイユ」も植えている。色々準備しているようだ。「仲間作りも考えた方が良くと思うよ」と、私…。とにかく、将来産地化していくこと…。杉並区内に多くの仲間を作らないと続かないヨ!

昔、々。大昔の事であります。「大島」で暮らしていた時に、地元の夏ミ

カン農家の酒井さんに。『筒口さん、跡(ミカン園)、やってくれないかな〜』と言われたことがある。お嬢様付きで…。酒井さんには男のお子さんがいなかったようだ。当時、私はまだ24才の若者であった。

大島二中に勤務していた。学校には、ミカン畑もあった。前任の安積先生が取り組んでおられた。引き継いだわけですが、私には、柑橘の栽培に少しの自信も無かった。それで、この御縁は、止めにした。

いか程かの土地をお持ちであろうと、まア〜東京では難しい話だ。ともかく果物栽培は難しく厳しい。「島」での体験から言えることだ。止した方が良い。で、柑橘類の「鉢植え」の商品を考えてみても良いと思うが、これまた大変であろう。とにかく手を出さない方がよかろう。

「鉢物の商品」なら高く売れるが、それにしても既成の産地と競争になる覚悟も必要であろう。簡単にできることではない。

西山君、「冗談話」で終るのが安全だヨ。それ程、若くはないのだから。

10月26日 耕区33区の様子



10/1 野菜残渣を積む

10/3 「糠」を振る

10/3 厚板を置く



10/13 板を置いて紫外線から守る

10/14 白菜

10/21 キャベツ等

成蹊大学馬術部でいただいていた「醗酵馬糞」を使って、ダイコン列2本を作りました。「中シャベル」で少々深めに耕しました。一斉に発芽が始まるが、……。直ぐに調子が悪くなり出し、枯れ始めた。失敗する。

「馬糞」は、かなり前にいただいていたので良かろうと思ってそのまま使ったのが間違いであった。醗酵不十分。「醗酵鶏糞」「カニ殻」「糠」…で、再醗酵させる。この「自作の醗酵完熟肥料」のように扱ってしまった。いつものように再醗酵させて使えば、こんなことは起こらなかったと思います。

「馬糞」を畝に入れた時に、土中の「N」肥を使い再醗酵が始まった。それで、「発酵熱」による乾燥。水不足。2週間後には全滅と言うことになった。

そこで、小松菜を追い蒔きする。(10/18) 今日 10/21)、発芽始まる。問題なし!!!。



ピーマン色づく

オカワカメ、(雲南百薬草)

アピオス芋

追肥溝の積み草を片付けて肥沃になった耕土をブロッコリー(タノレット)キャベツ畝の肩に載せる。有機物の完熟後にできた「耕土」である。肩に乗せる。それだけ。オクオク・ラクラクの作業である。

追肥溝の土を掘っていきましたら、「アピオス」の芋が沢山でてきました。2mmほどの太さの根に等間隔で芋が丸く膨らむ。根は、放射状に伸びる。

地表から3cmぐらいの所に延々と伸びる。アピオスの芋には、「Ca」(カルシウム)「K」(加里)の成分が多いいそうで、東北や長野の高血压対策に導入されたと聞く。

「エアーポテト」？ 手持の資料(栽培植物の起源と伝播 星川清親著)で調べたのですが、最新のものは出ていない。 そうだ、「スマホ検索」=「打ち出しの小槌」があるではないか！。「検索」で出てくる。全く、すごい話である。



耕作区 33 区の片付け始める

アカマンマ(タデ科)

畑にウオーターポパイ咲く

若い方々が、『話し中失礼なのですが、お話のテーマを始めにおっしゃっていただきたいのですが……』と。そこで、話しの始まりに「○○の事なのですが……」と始めると、そこから中でスマホの「検索」が始まる。

便利になり過ぎです。指の運びの早いこと驚きです。それが普通なんです。素早くスマホ画面を読む。忙しい話だ。それで、分った積りになる。

「見て」「聞いて」「考えて」「やってみて」「体験を繰り返して」、解るのではないのでしょうか。また、自分の考えを「話す」ことも「解る」体験であると思います。今聞かないで、後で「スマホ」で、となる……。これでは、解かったことにはならない。コンピューターやスマホなどの使えるものは大いに利用することも大切であろう。スマホを程良く使いましょう。

さてと。 関心のおありの方は、「エアーポテト」で、先ずは、「検索」「検索」!!!。すると、つくね芋が蔓になる「絵」が。不思議な山芋である。

さらに、面白い話が大量に次々と得ることが出来るのであります。

『筒口さんの畑に、カキナの芽が出ているようだが、もう農園の使用期限での収穫は無理ではないかしら … 』。 ドキリ！ … 。 まあ～いいさ、若芽ごと摘んで食べましょう。

ハクサイ オザキフラワーセンター(大規模園芸店)で、白菜を仕入れる。夫婦二人だけの所帯であるので、多くはいらぬ。収穫期の違う品種を2種、植える。練馬はダイコン。戦後は、キャベツ。世田谷は、ハクサイ。品種改良が進む。名産地であった。白菜をナスの跡地に植える。

「江戸・東京 ゆかりの野菜とお花」J A東京中央会(農文協) 加藤源蔵著 55 ページに、世田谷の篤農家 下山義雄氏が、連作障害(ウイルス病)に強い品種「下山千歳ハクサイ」を育成した。これで、壊滅状態になった世田谷地区の白菜は、復活したとある。昭和28年の事である。お家の玄関前に立派な記念碑がある。豪農である。世田谷千歳一帯は、白菜の大産地になった。

GA東京、小口会長に案内いただいて、色々と学習しました。「茶」の若芽を焙じた手作りのお茶を、始めていただきました。美味しかった。色々と楽しい一日を過ごすことができました。ご当地千歳船橋は、お茶の産地でもあったのでありましょう。美味しいお昼もいただきました。古民家も見学できました。

先述の西山君は、十数年、ダイコンを連作栽培していた。実に見事な大根を作られていた。だが、葉が縮む。根部が矮小化。そこで、栽培を止める。「縮葉病」「根こぶ病」「ネコブセンチュウ」で、ダメになる。

私は、彼の畑で、「ナス作り」をよく見て学ぶ。完全有機栽培。ハンマーモアで深耕する。マルチを掛ける。多量の散水。美味しいナスだ。ナスに関しては名人。農業経営は、色々と大変であろう。美味しいナスを作られている。

井草にある御本家の西山家は、上井草～都立農芸高校当たりの豪農で、鎌倉武士集団の一族だったようだ。(御当主談) GA東京の学習会で、見学したことがありました。

西山家の裏に、井草川の源流がある。湧水地である。青梅街道は、新宿方向に緩い下り道。尾根道である。その北側に井草川が流れる。井草中、杉並工業、都立農芸高校の実習地(田圃)、を経て妙正寺川になる。鷺宮、西武線の高田馬場を経て神田川に……。

この流域は江戸時代貴重な米作地帯であった。昭和20年には、目白大学の南に流れる妙正寺川に沿って水田が広がっていた。落合には、豊かな水を使って染色工場もありました。「林芙美子記念館」もある。やがて、早稲田に出る。

そうそう、早稲田は、「ミョウガ」の特産地として、知られている。最近、「ワセダミョウガ」は、復活した。入手方法は、…、スマホ、スマホ。

T、